

答辞

冬の寒さが残る中、柔らかな日差しから春の訪れを感じられる今日、私たち卒業生はこの川之江高校を旅立ちます。

三年前の四月、私たちは新しい制服に身を包み、新たに始まる高校生活に期待と不安を抱きながら一年生の教室に足を踏み入れました。人間関係にまだ不安が残った状態で向かった大洲での集団宿泊研修。天候に恵まれず、体育館でレクリエーションをしたり、雨で地盤が緩んだ道を仲間と助け合いながらウォークラリーをしたりと、忙しい一泊二日でしたが新しい仲間との絆を深めるきっかけとなりました。

二年生になり、北海道と関東に分かれて行った修学旅行。高層ビルが建ち並ぶ大都会の景色を堪能した東京スカイツリーや国会議事堂の見学、ディズニーランドでのアトラクションを楽しむなど、濃い思い出を作ることが出来ました。大好きな仲間と共に、普段は出来ない経験をさせていただきました。

三年生になってすぐ、新型コロナウイルス感染拡大のため臨時休校。それまで耳にしたことのない新しいウイルスに誰もが恐怖を感じました。授業を受けることが出来ず、休みに友達とたわいもない会話で笑い合うことすら出来ず、つらさと寂しさが私たちの心を埋め尽くしました。休校中、二年生まで当たり前のように過ごしてきた学校生活が当たり前ではなかったことに気づかされました。休校が明けて学校へ登校し、友達に会えた時の喜びは強く印象に残っています。お弁当は前を向いて静かに食べたり、去年までとは違う形で学校行事が行われたりするなど、徹底的な感染対策のおかげで私たちは安心して学校生活を送ることが出来ました。

私たちにとって最後の体育祭は開催が危ぶまれましたが、先生方が懸命に検討を重ねてください、開催されました。先生方の期待に応えようと、各団放課後も毎日応援練習やアーチの制作に取り組みました。みんなの動きをそろえることに苦戦しましたが仲間同士で教え、支え合った応援練習。構成から考え、細かいところまで手を込んで作り上げたアーチ制作。一人一人が良いものにしようと積極的に練習や制作に参加し、強い日差しの下で汗を流しながら必死に取り組んだあの日々は紛れもなく青春そのものでした。最初はなかなか団結することが出来ず、大きな不安を抱いていました。体育祭を成功させたいという気持ちはみんな同じなのに、毎日がすれ違いの連続でした。しかし練習を重ねるごとに全員が同じ方向を向くようになり、練習中にも笑顔が増え、団結力がより一層高まりました。そして迎えた体育祭当日。例年よりも規模や時間が縮小された体育祭ではありましたが、各団で練習してきたことが出し切れるよう全力で挑み、優勝を目指して競い合いました。活気が溢れ、学校全体が一つになったあの感動は今でも忘れることができません。

授業終了のチャイムと同時に部活動へと駆け出す足音。体育館で鳴り響く笛やシューズの音。グラウンドで飛び交うかけ声。学校の至る所で部活動に懸命に励む仲間たちを想うと私自身も頑張ろうという気持ちになりました。暑い日も寒い日もボールを打ち続けた女

子バレーボール部での活動。自分のプレーに自信が無く、練習の度に自分の未熟さを痛感する日々でした。2年生の新人戦では良い結果を残すことが出来ず、三年生の総体でのリベンジを心に決めていました。ところが、三年生にとって最後の大会である総体の中止が言い渡され、心にぽっかりと穴が空いてしまったような気持ちになりました。部活動に打ち込んできた多くの部活動生の皆さんも同じような気持ちになったのではないのでしょうか。先生方が引退試合という最後の舞台を用意してくださり、力の限り精一杯試合に臨みました。勝利を勝ち取れたとき、嬉しさや感謝の気持ちなど様々な感情が入り混じった涙が溢れ出しました。正直、コロナ禍でつらいことや悔しいことがたくさんありました。ですがコロナ禍だからこそ、感謝の気持ちをより大きく感じられました。土日の休日も惜しまず私たちのためにたくさんの練習試合を組み、熱心に御指導をしてくださった顧問の先生。どんなに朝が早くても毎週のようにある練習試合の送り迎えをしてくださった保護者の皆さん。本当にありがとうございました。皆さんの支えがあって三年間の部活動に打ち込むことが出来ました。そしてどんな時も支え、励まし合ってきた女子バレーボール部の仲間たち。上手いかず泣いたことやぶつかることもたくさんありました。良い結果を残せていない現実を全て受け止め、一つの目標に向かって練習を重ねた時間はかけがえのない宝物です。

部活動を引退すると、それぞれが就職や進学など自分の進路の実現に向けて取り組み始めました。履歴書の作成や面接練習、小論文やプレゼンテーションの準備、共通テスト対策など様々な方向に必死に取り組みました。自分に足りていない課題が見つかる、すぐに目を逸らしたくなります。時間は私たちの味方をしてくれず、追い込む一方です。しかし周りには頑張り続ける仲間がいて、その姿に何度も助けられました。よく先生が仰っていた受験はチームプレーだという言葉の意味がよく理解できた瞬間でした。

今日この場に出席することが出来なかった在校生の皆さん。今ある高校生活の一日一日を大切に過ごしてください。私たちが突然休校を強いられたように、明日突然学校へ行けなくなるかもしれません。友達に会えなくなるかもしれません。だからこそ、友達との密度の高い良い思い出をたくさん作ってください。しんどいことやつらいことが自分の上のしかかり、目の前が真っ暗になることもあると思います。そんな時、諦めず突き進んだ経験は必ず自分のためになります。後悔の無い、楽しい高校生活を送ってください。

いつも私たちのそばで支えてくださった先生方。毎日の授業だけでなく、一人一人の進路指導も、忙しい中、快く引き受けてくださいました。悩み、途方に暮れた時も一番近くで親身になって相談に乗って下さり、私たちの心の支えになっていました。先生方が掛けて下さる厳しい言葉を素直に受け止めることが出来ない時期もありましたが、今思い返すと全ての言葉が私たちが成長させる言葉だったことに気づきました。先生方から三年間教わってきたことを活かして夢に向かって頑張ります。

そして大切な家族。何事にも率先して、私のことを一番に考えて行動してくれました。普段はふざけていたり、自分勝手なことを言っているこんな私を時にはたくさん褒めてく

れ、時には叱ってくれて、たくさん愛情を感じました。私が悩んでいて心配を掛けてしまった時や落ち込んでいる時も味方でいてくれました。照れくさくてあまり言葉にして伝えられないけれど、心から感謝しています。本当に仲が良く賑やかな家族であることは、どこへ行っても誰に向かってでも自信を持って言えます。お父さん、お母さんの娘であることを誇りに思います。18年間育ててくれて本当にありがとう。

最後に、卒業生のみんな。長かったようで短かった三年間があっという間に過ぎ、お別れの時が来てしまいました。一緒に通学路を歩いて登校することも、授業を受けることも、笑い合うことも、もうありません。この楽しかった高校生活での思い出を忘れないでいてほしいです。寂しいけれどこれからはみんな別々の方向へ進んでいくことになります。いつかまた、夢に向かって頑張るキラキラとした姿のみんなと会えることを楽しみに、それぞれの道を歩んでいきましょう。みんなと出会えて良かった。本当にありがとう。